発行所
60th plus 5
日報ビジネス株式会社
Vision Vitality Victory
〈東京〉〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-1-5
電話03(3262)3488 FAX03(5214)6633
〈大阪〉〒541-0054 大阪市中央区南本町1-5-11
電話06(6262)2406 FAX06(6262)2090

2月28日 No.1574
2022年(令和4年)
週刊 月曜発行
発行人 河村 勝志
平成元年9月22日 第3種郵便物承認
購読料(定価) 年間 22,900円+税
1部本体 495円+税

週刊 循環経済新聞
JUNKAN KEIZAI The Recycling Economy Times

食品系・バイオマス

バイオガス発電を講義

子どもたちの気付きに

地元小学校で出前講座

西東京リサイクルセンター

東京都羽村市で、羽村バイオガス発電所を操業する西東京リサイクルセンター（植田徹也代表取締役、☎042・533・6640）は2月10日、同市の市立武蔵野小学校で4、5年生を対象に環境出前講座を行った。同社取締役会長の大橋徳久氏が、バイオガス発電の仕組みなどについて講義を行った後、児童がグループに分かれて活発な意見を交わし、学びを深めた。

出前講座は、同校が「総合的な学習の時間」を活用して実施する環境学習の一環として、大橋会長が講師に招かれて実現した。当日は、午前中に4年生、午後に5年生のそれぞれ約80人が体育館に集まり、講座とグループワークの時間が設けられた。

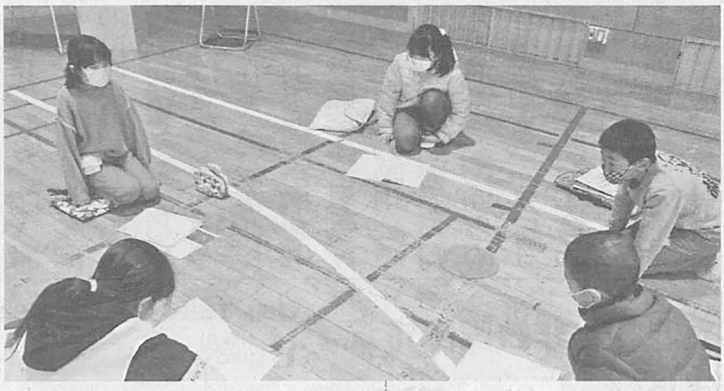
大橋氏は、バイオガス発電の仕組みと再生可能エネルギーでの社会貢献について解説した他、SDGs・3R・地球温暖化防止などの環境キーワードと生活とのかかわりについて、同社施設の話を交えて説明。児童からは「廃棄される食品から電気をつくる工場が地元にあるとは思わなかった」など驚きの声もあがった。

同校の海東朝美校長は、今回の出前講座について、「一方通行の講義ではなく、児童が講義を聞いて考えたことについて意見を出し合う、これまでにない取り組みになった。ごみ拾いなどの日頃実践している活動だけでは解決しない問題への気付きにもなり、自分たちの活動を見直すよい機会になった」と意義を語った。

大橋氏は「今後も羽村市で20年、30年にわたってバイオガス発電事業に取り組んでいくなかで、環境のことを一緒に学んだ地元の子どもたちから、将来1人でも当社に入社したいと思ってもらえるなら嬉しい」と期待感をにじませた。

羽村バイオガス発電所は、同市の工業専用地域で2020年に竣工。1日当たり168トンの許可処理能力（食品廃棄物で最大80トン処理を想定）と、年間約770万キロワット時の発電能力を持つ。産廃処分業の許可に続いて、今年1月には一般廃棄物処分業の許可を取得し、事業系一廃の生ごみを受け入れできる体制を整えた。

講義する大橋会長



グループワークで意見を交わす児童。出前講座の経験が豊富な大橋氏も、同校児童の環境意識の高さには驚いたという